

昨年12月に京都市で開催されたテニスの第58回全日本実業選手権男子シングルスで西脇一樹（Team RJC・松商学園高1明大出）が初優勝した。全日本選手権と並ぶ国内主要タイトルの一つ。自信を深めた西脇は「一番の目標はダブルス（四大大会）出場。もっと力を伸ばしたい」と飛躍を誓う。

にしわき・かずま 10歳から競技を始め、松商学園高3年時の全国高校総体は準五冠と輝いたダブルスで、テニスの全種目を遍して県勢初の優勝を飾った。明大卒業後の全日本学生選手権シングルスで4強入りし、卒業後にプロ転向。シングルスの日全三ツキンは25位、世界三ツキンは89位（ともに9日現在）。17歳、71㎝。右利き。実家が京都府宇治市に在住。28歳。

全日本室内テニス男子単初V 松商学園高出の28歳

「目標はダブルス出場」と語る西脇一樹

西脇さらなる飛躍の年に

「目標は四大大会」自信深め心技体磨く

予選から勝ち上がり、本戦は連々決勝まで3試合をストレート勝ち。第1シードの片山翔（伊予銀行）と対戦した準決勝は、「明らかに相手よりも良かったという感じで優位に立ち、2-1で逆転勝ち。決勝は第2シードの巨匠光（早大）に2-1で競り勝った。

京都府宇治市出身。松商学園高3年時の2012年全国高校総体ダブルスで優勝。明大卒業後の17年にプロ転向を決めた。現在は京都圏にテニスクラブなどを展開する企業に所属し、海外のトーナメントを転戦する。当初は慣れない海外生活や成績不振に「テニスが好きになりそうな時もあった」。ミスを怖がって返球が甘くなったり、失敗を避けようと本来の積極性を失いかけたりした。

転機は昨年10月。体づくりをサポートしてもらっているトレーナーに「勝てないのはメンタルが原因じゃない。下手だから勝てないんだ」と言



われた。厳しい言葉は心に響き、「自分はメンタルが強くないことを理由に攻めていなかった」と気づいた。気持ちの切り替えがインパクトで切れた国際大会で2度ベスト8に入るなど状態が上向いた。

最速200㎞のサーブと精度の高いフォアが持ち味。特にグランドスラムに打ち分けるサーブは「トスの位置を奪えない。相手はどちらに来る

か予測しづらい」と自信を持っている。

23年の目標は、現在80番位の世界三ツキンを「50位前後に上げる」。そのために、体、心の全ての能力値を高めなければならない。四大大会の予選出場には230位前後に三ツキが必須といい、「成長するためには何が必要か考え続ける。目標達成のための努力は惜しまない」と深慮を込めた。



初優勝を決め、拳を握り締め、西脇一樹（京都府テニス協会提供）